

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
 【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。
- ・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	55 国際交流センター	責任者	所長 姫田麻利子
基準4	教育課程・学習成果	自己評価	B
★基準4の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
本センターにおける教育の革新を期待され2020年度に着任した本センター初の専任教員は、コロナ禍を経て2022年度後期によりやく本学の交流学生科目の運営を経験した。本センターのカリキュラムや評価方法はここから多角的に発展すると考えられる。			
点検・評価項目(1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。		
★<到達目標>（記入してください。） ■国際交流センター 到達目標（Achievement Goals） 国際交流センターは、学部学科の提供する学びのうち、とくに国際的視野をもって協働し、新しい文化を創造する力に関する学びを発展させる。 1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能 (1)日本語で専門的知識を修得するための知識・技能を身に付けている (2)英語で専門的知識を修得するための知識・技能を身に付けている 2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力 (3)言語文化を共有しない相手とも協力して問題を解決することができる 3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感 (4)複数言語文化の知識と経験にもとづき、国際社会に貢献する意欲を持っている 4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解 (5)他者の言語文化に対する敬意・理解・共感を表現できる			変 有() 更 無(○)
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。		
評価の視点2※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）		
◆学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。			
なし。			
点検・評価項目(2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。		
★<教育課程の編成・実施方針>（記入してください。） <国際交流センターの教育課程の編成・実施方針> 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 国際交流センターは、学部学科の提供する学びのうち、とくに国際的視野をもって協働し、新しい文化を創造する力に関する学びを発展させる。 1. 教育内容 (1)日本語で専門的知識を修得するための知識・技能（AG1） (2)英語で専門的知識を修得するための知識・技能（AG2） (3)言語文化を共有しない相手とも協力して問題を解決する力（AG3） (4)複数言語文化の知識と経験にもとづき、国際社会に貢献する意欲（AG4） (5)他者の言語文化に対する敬意・理解・共感を表現できる力（AG5） 2. 教育方法			変 有() 更 無(○)

<p>(1) 技能別・習熟度別クラス編成により、日本語を母語としない留学生を対象とした日本語知識・技能の教育を行う。</p> <p>(2) 技能別・習熟度別のクラス編成により、留学への意欲をたかめ派遣先で主体的に学ぶための英語知識と技能の養成を行う。</p> <p>(3) 短期・長期の留学機会を提供。</p> <p>(4) 第1言語の異なる学生間の協働作業を推奨する。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) シラバス記載のとおり形成的評価と総括的評価を総合して行う</p> <p>(2) 日本語、英語において外部試験等で到達度を確認する。</p>	
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。
評価の視点2 【基礎要件●】	上記の方針は、学位授与方針に整合している。
評価の視点3※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）
<p>★※AGとCPの連関について（AGとCPの各項目の番号を矢印で紐づけてください。）</p> <p>AG(1) → CP1; AG(2) → CP2 AG(3) → CP3; AG(4) → CP4; AG(5) → DP4</p>	
<p>★項目(2) 4-2 AGについて、それぞれの内容がどのようにCPの内容に反映されているのか（あるいは教育課程のどこで具現化されるのか）、その連関について説明してください。</p> <p>以下の事例を(DPをAGに読み替えて)参考に記述してください。※事例は過去のもです。なおここではDP1のみ抜粋ですが続きがあります。</p> <p>・DP「1. 知識・技能」(1)に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、DP「1. 知識・技能」(2)の「文献や資料を的確に読解する」については、CP「1. 教育内容」(1)で、『日本文学史概説』『日本語学概説』などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、CP「1. 教育内容」(2)で『「日本文学講読」「日本語学講読」や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。</p>	
<p>◀回答▶</p> <p>AG1に明示した「日本語で専門的知識を修得するための知識・技能」は、CP「2、教育方法」(1)の「技能別・習熟度別クラス編成により、日本語を母語としない留学生を対象とした日本語知識・技能の教育」に反映されている。</p> <p>AG2に明示した「英語で専門的知識を修得するための知識・技能」は、CP「2、教育方法」(2)の「技能別・習熟度別のクラス編成により、留学への意欲をたかめ派遣先で主体的に学ぶための英語知識と技能の養成を行う」に反映されている。</p> <p>AG3に明示した「言語文化を共有しない相手とも協力して問題を解決する力」は、CP「2、教育方法」(3)の「短期・長期の留学機会を提供」に反映されている。</p> <p>AG4に明示した「複数言語文化の知識と経験にもとづき、国際社会に貢献する意欲」は、CP「2、教育方法」(3)の「短期・長期の留学機会を提供」に反映されている。</p> <p>AG5に明示した「他者の言語文化に対する敬意・理解・共感を表現できる力」は、CP「2、教育方法」(4)の「第1言語の異なる学生間の協働作業を推奨する」に反映されている。</p>	
<p>◆教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。</p> <p>カリキュラムポリシーがホームページに公表されていないため、今後公表する手続きを進めていく。</p>	
点検・評価項目(3)	4-3教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

評価の視点1※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-1*学則、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点2※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー
評価の視点3※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点4※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート9
評価の視点5※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点6※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き（事務室にある手引きにてご確認ください、国際交流センターからご提出いただく必要はありません）
評価の視点7※	センターの教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
★項目(3) 4-3①留学（英語）副専攻科目等について、教育目的や特色等を解説してください。	
<p>《回答》</p> <p>留学（英語）副専攻では、派遣留学に先立ち留学先での受講に必要な総合的な力を身につけることを目的として、英語圏等の大学で求められるアカデミック・イングリッシュスキル科目、および英語を教育言語とする教養科目を開講している。目的を留学に特化して英語を中心に学ぶことで、派遣先での適応の問題を減じ、留学の成果を高めることができる。留学（英語）副専攻科目として開講される教養科目のうち、留学生も履修する「グローバルスタディ」では国際的協働の体験により、異文化間能力の発展をねらう。</p>	
★項目(3) 4-3②当該部局のカリキュラムの編成、授業科目の配置の特性について解説してください。	
<p>《回答》</p> <p>日本語教育のカリキュラムは、基礎コース（交流学生・スポーツ留学生対象）、発展コース（正規留学生対象）、内容コース（日本社会・文化理解）から構成され、大学の学びに必要なとされる日本語の知識・技術の教育を提供。</p> <p>一部の学部を除く全学の学生が履修する留学（英語）副専攻では、英語スキル科目（初級・中級・上級の3レベル編成）を7科目、英語で様々な学術分野の基礎知識を学ぶ教養系科目を8科目（留学生との共修科目含む）提供している。</p>	
◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。	
<p>《回答》</p> <p>なし。</p>	
点検・評価項目(4)	4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。
評価の視点1	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を取り入れている。
★項目(4) 4-4①学生の主体的参加を促す授業について、以下(1)(2)に該当する事例を根拠資料（該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど）を用いて解説してください。	
(1)主体的な学び（演習、実習、フィールドワークなど）の事例	
《回答》	<p>アクティブ・ラーニング型授業やフィールドワークを取り入れている</p> <p>《根拠資料》 55-C4-1：留学生科目シラバス</p>
(2)インタラクティブ（双方向）な授業展開のための少人数授業の事例	
《回答》	<p>受講可能人数は20名以下を原則とし、ペアやグループワークによるディスカッション、プレゼンテーションを行っている。</p> <p>《根拠資料》 55-C4-2：留学生科目シラバス</p>
(3)教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例	
《回答》	<p>LMS（manaba）を利用した双方向コミュニケーションの機会を提供</p> <p>《根拠資料》 55-C4-3：留学生科目シラバス</p>
(4)授業方法として、グループ活動の活用の事例	
《回答》	<p>グループワーク、プレゼンテーションによる意見交換</p> <p>《根拠資料》 55-C4-4：留学生科目シラバス</p>

評価の視点2	学習の進捗と学生の理解度の確認	
★項目(4) 4-4②授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。		
<<回答>> シラバス記載のとおり形成的評価と総括的評価を総合して行う。		
評価の視点3※	授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導 (履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している(オンラインも含む))。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項、(オンラインの場合はWeb サイトも可→別紙の備考に URL 記入)	
評価の視点4※	授業外学習に資する適切なフィードバックら、量的に適切な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス	
評価の視点5	授業形態によって1授業あたりの学生数について配慮している。	
項目(4) 4-4③授業形態(講義、実習、演習)によって、1授業あたりの学生数を設定している場合、授業形態別に事例を回答してください。(例: 演習科目、実習科目は少人数(原則10名以下)、大規模講義科目は原則200名まで、など)		
<<回答>> 演習科目は少人数制(原則20名以下)。		
評価の視点6	学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習(予習・復習)を奨励する取り組みを実施している。	
★項目(4) 4-4④学習支援ツールや授業外学習(予習・復習)を奨励する取り組みについて、根拠資料を用いて回答してください。		
<<回答>> LMS(manaba)を利用した授業外学習の実施		<<根拠資料>> 55-C4-5: 留学生科目シラバス
◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。		
<<回答>> なし		
点検・評価項目(5)	4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
評価の視点1※ 【基礎要件●】	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート10、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料	
点検・評価項目(6)	4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
評価の視点1※ 【評価要件○】	学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標(特に専門的な職業との関連性が強いもの)にあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。)を設定している。 *成果指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせ設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果	
評価の視点2※ 【評価要件○】	学生の学修成果の測定方法を開発している。 <<学修成果の測定方法例>> ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学修成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果	
★項目(6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DPに示す学習成果(能力や資質)」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。		
<<回答>>		<<根拠資料>>

<p>・「日本語文章表現」で課題ループリックを導入。 ・「グローバルスタディ6」で国際共修のアセスメント項目を提示した振り返りシートを導入。</p>		<p>55-C4-6：課題ループリック、振り返りシート</p>
<p>★項目(6) 4-6②学習成果を測定した結果（共通設定と、独自設定含む）について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。</p>		
<p>《回答》 ・「日本語文章表現」ループリックの学習成果として、自分のレベルを確認し、より高い目標を達成しようとする姿勢が見られ、課題が進むにつれて高い評価を得ることができた。 ・「グローバルスタディ6」アセスメント項目により、期待される能力を意識して活動に取り組む姿勢が見られた。</p>		<p>《根拠資料》 55-C4-7：課題ループリック、振り返りシート</p>
<p>★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。</p>		
<p>《回答》 「国際共修」は新しい概念のため、世界的にも議論が始まったところであり、指標や測定方法をトライアンドエラーで継続的に検討する必要がある。</p>		
<p>★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。</p>		
<p>《回答》 同上。</p>		
<p>点検・評価項目(7)</p>	<p>4-7教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。</p>	
<p>評価の視点1※ 【評価要件○】</p>	<p>適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B2-51 2023年度点検・評価シート B2-52 会議録(または準ずるメール記録)：(開催日) 2023年度自己点検・評価について</p>	
<p>評価の視点2 【評価要件○】</p>	<p>点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組を行っている。</p>	
<p>項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。 他大学事例： ・論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。 ・「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。 ・英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理しFD部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。 ・論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。</p>		
<p>《回答》 2022年度入学者より、外部試験(J-CAT)受験を1年次に義務化した。測定結果をカリキュラム改定、学習計画等に活用している。</p>		<p>《根拠資料》 55-C4-8：J-CAT分析結果</p>
<p>項目(7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。</p>		
<p>《回答》 ・2022年度のJ-CATの結果をもとに、2023年度は日本語力の低い学生対象のクラスを設定した。</p>		<p>《根拠資料》 55-C4-9：留学生ガイダンス資料</p>

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項(工夫していること)を、意図した成果(目標)を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

<p>長所・特色</p>	<p>【留学生科目】 ・交流生においては、短期間で成果を出すために、プレイスメントテストと面接を実施し適切なレベルのクラスを提供している。 ・学習したことを実践につなげ、日本理解を深め留学を効果的なものとするため、日本人学生との共修科目を開講している。</p> <p>【留学(英語)副専攻】 留学に必要な英語4技能をレベル別(初級・中級・上級)に開講しているほか、英語で専門分野を学ぶ教養科目、日本人</p>
---------------------	---

学生と留学生との共修科目を開講している。

Ⅲ 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：複数記述可、ただし2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	なし
--------	----

Ⅳ【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B票№ or 開始年度	改善計画（アクションプラン）	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	2	2018-4Ⅲ-1	留学生科目（日本語科目）のカリキュラム改正及び日本語教育の教育方法及び評価方法の確立。	留学生科目（日本語科目）のカリキュラム改正及び日本語教育の教育方法及び評価方法の確立。	①留学生科目（日本語科目）のカリキュラム改正 ②日本語教育の教育方法及び評価方法の確立	A(100%)：教育方法及び評価委方法の確立 B(80%)：カリキュラムの改訂 C(50%)：カリキュラムの検討 D(20%)：カリキュラムの検討が行われていない	2022 未結果：C 2023：C 2024：C 2025：B 2026：B 2027：A
②	5	2022-4Ⅲ-1 (4-7)	学修成果の測定結果の活用検討	日本語教育プログラムの改善・向上を目指す。	自己点検・評価を行う際に、学習成果の測定結果を踏まえた教育効果を検証し、国際交流センター提供の日本語教育プログラムの改善・向上を目指す。	A(100%)：教育改善計画の実施 B(80%)：改善計画の策定 C(50%)：測定結果分析と結果を踏まえた改善計画の検討 D(20%)：学習成果の測定・分析	2022 未結果：D 2023：D 2024：C 2025：C 2026：B 2027：A
④	2	2023 (2022～継続)	非漢字圏留学生を対象とする日本語教育プログラムと学修支援制度の開発	①従来よりも多様な国・地域から外国人留学生の受け入れを目指し、新たな受け入れ制度を設けて本学の一層の国際化を図る。 ②海外の高校から直接日本の大学へ進学するニーズを取り込み、本学の教育課程に必要な日本語教育を実施する。	①受け入れ制度設計に必要な情報収集、検討、制度導入 ②非漢字圏留学生を対象とする日本語教育プログラム及び学修支援制度の開発	A(100%)：受け入れ制度および日本語教育プログラム等の運用 B(80%)：受け入れ制度の導入、日本語教育プログラム等の実施と改善 C(50%)：受け入れ制度設計を踏まえての日本語教育プログラム等の検討 D(20%)：受け入れ制度設計のための情報収集	2023：D 2024：C 2025：C 2026：B 2027：B 2028：A

Ⅴ【内部質保証委員会による点検・評価】

2022年度<所見>	2022年度入学者より外部試験(J-CAT)受験を義務化し、今後、測定結果をカリキュラム改定、学習計画等に活用する予定であることは評価できる。他方、日本語能力だけで学習成果を測定するのではなく、他にも適切な学習測定方法がないかについて検討されることが望まれる。
2023年度<所見>	学部留学生、交換留学生の日本語教育、日本人学生の留学増加のための留学副専攻の設置、それに伴う到達目標のカリキュラムについては整合性があり、評価できる。

カリキュラムポリシーの大学ホームページでの公表を進める準備と共に、学生にはわかりやすいように工夫していただくことを要望する。

また、学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組みとして、J-CATの結果をもとに、日本語力の低い学生対象のクラス設定をされており、教育方法の改善に繋がっていることは高く評価できることである。

多種多様な留学生の日本語教育の質の向上、改善が今後のポイントになるように見受けられ、改善計画（事業計画）から重要な課題に取り組もうとされる様子が伺え、それぞれ成果をあげられることを期待する。

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部署の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。 (評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部署の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合)
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。 (評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合)
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

(解説)

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価するこ

とが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。